

中国・青海省地震への 救援募金にご協力下さい



青海省地震

<地震の概要>

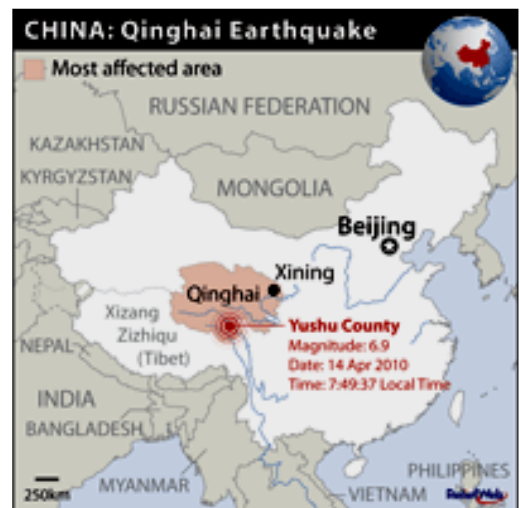
日時：2010年4月14日 午前7時49分
(日本時間同8時49分)

震源：中国青海省玉樹(ぎょくじゅ)チベット族自治州玉樹県
規模：マグニチュード7.1

<被害の状況>

死者数：2698人
行方不明者数：270人
負傷者：1万2000人以上
被災者：約24万人
倒壊家屋：1万5000棟
経済被害：約8000億元(約11兆2000億円)

(青海省政府発表)



地図：UNOCHA より

青海省地震への CODE の支援活動

神戸のNPOスタッフ・吉椿さん



被災者へ神戸からの支援物資を手渡す吉椿さん（右端）＝中国・青海省

中国・青海省の被災地に

中国青海省地震の被災者を支援するため、神戸市兵庫区のNPO法人「CODE（コード）海外災害援助市民センター」のスタッフ、吉椿雅道さん(42)が今月、被災地へ入り、神戸からの救援物資などを届けた。

(斉藤絵美)

手作りタオル、食料配布

吉椿さんは4月14日の地震発生時、四川大地震の復興支援のため四川省に滞在。死者は2千人以上とされたが、混乱を招くとしてボランティアが被災地へ入るのを制限され、出発は6月2日になった。は色濃く地震のつめ跡を残していた。旧市街地は土壁で作られた家がほぼ全壊。プロックの塊やがれきがあふれ、見渡す限り建物がなかった。家を失った数万人の被災者は、街から2、3キロ離れた草原でテント生活。吉椿さんもテントで寝泊まりし、被災者へ聞き取り調査をしながら、支援物資を配布した。家を失った被災者が「代々受け継がれた土地。もう一度そこに住めるか分からない」と肩を落とした姿は忘れられないという。

吉椿さんは、報告のため日本に帰国。6月下旬に再び四川省へ戻り、青海省への支援策を模索するという。標高約3700mの青海省は9月から冬となり、気温がマイナス30度下がる日もある。「経済的な長期的な対策も必要だが、まずはどう冬を越すかを考えて支援したい」と話していた。

▲2010年6月19日 神戸新聞

- CODEは、2008年の四川省地震の復興支援にあたっているスタッフを四川省から青海省に派遣し、6月上旬に救援物資の配布、義援金の贈呈および調査を行いました。
- 被災地では大規模な避難キャンプに数千のテントが張られ、数万人の被災者が避難生活を送っていますが、政府もNGOも実態は把握しきれていません。テントを受け取っていない家族もいると言われています。被災者であるチベット族には、公用語である中国語を話さない人や戸籍のない人もいるため、配給を受けるのに必要な被災証明書が発行できなかったり、そのシステムが伝わらないなど支援に困難が生じています。
- また、復旧・復興活動ができるのは「夏」の間の4ヶ月程度であり、9月から始まる長く厳しい「冬」をどうやって乗り越えるのかも懸念されています。
- CODEは今後、被災者にとって一番の支えとなるものは何かを考え、支援を行っていきます。可能性としては、チベット族の生活に欠かせない家畜「ヤク」の支援や、被災者の心のよりどころとなる寺院の再建の支援などを検討しています。また、神戸の被災者が作るハンディクラフト「まけないぞう」(タオルを手縫いして作られるゾウ)のような復興のシンボルを生みだし、経済的・精神的な支援につなげることも考えています。

青海省地震救援募金にご協力をお願いします

郵便振替:00930-0-330579

加入者名:CODE

通信欄に「中国青海省地震支援」と明記して下さい。

募金全体の15%を上限として事務局運営・管理費に充てさせていただきます。

CODE 海外災害援助市民センター

〒652-0801

神戸市兵庫区中道通 2-1-10

TEL: 078-578-7744

FAX: 078-574-0702

E-mail: info@code-jp.org